

学 内 告 示
令和2年9月30日

学長候補適任者の選考結果について

国立大学法人宇都宮大学学長選考規程第5条第2号に基づき、下記のとおり学長候補適任者を選考したので公表する。

国立大学法人宇都宮大学学長選考会議

記

学長候補適任者

現職名	氏 名
1. 理事・副学長	池 田 宰
2. 教 授	田 卷 松 雄
3. 理事・副学長	夏 秋 知 英

(五十音順)

学長選考対象者推薦状

令和 2 年 9 月 1 6 日

国立大学法人宇都宮大学
学長選考会議議長 殿

推薦者代表

所属・職名 工学部 学部長・教授
氏 名 横田 和隆



私は、学長選考対象者として下記の者を推薦します。

記

1. 氏 名

池田 宰

2. 現(元)職名

理事 (学務・情報担当)・副学長

3. 推薦理由

宇都宮大学をビジョンとリーダーシップをもって率いることができる次期学長は、池田宰先生を
いて他にいらっしやらないと考えます。

栃木県に所在する唯一の国立大学である宇都宮大学が、教育と研究の二つの面で学術と社会に貢献
してゆくためには、大学内部の教育研究活動の活性化と、地域と大学の連携協力関係の振興・強化が
求められるところであります。池田先生は、平成 14 年に本学に赴任して以来、CREST の研究代表者
を務めるなど、化学と生物の先進的な融合研究において数々の研究成果をあげてきた優れた研究者で
あると同時に、工学研究科長、研究・産学連携担当理事、学務・情報担当理事を歴任して、教育、研
究、社会連携という大学の基幹機能のすべてにおいてバランスよくお力を発揮してこられました。平
成 16 年の法人化以降、国立大学を取り巻く環境がますます厳しくなる中で、本学の運営を担い、多
面的に支えてきた池田先生は、学長として大学を率いる方に我々が求めたい豊富なご経験と実績をお



持ちであります。

また池田宰先生は、理事にご就任になる前の工学部の教員時代から他学部の多くの先生方と交流をお持ちで、本学の状況を熟知なさっていること、県内の多数の高校の先生方と懇意で本学教員と高校教員の親睦の輪を深めてきたこと、産学官連携を推進するために県内の産業界、自治体と対話を持ち、現在の宇大未来塾の前身である社会人向け経営工学講座を立ち上げ運営してきたこと、など、学内、学外に広い人脈をお持ちで、かつそれが今日の本学の発展に寄与してきたことには疑いの余地がありません。

池田先生の日頃のお考え、ご発言を考えれば、宇都宮大学を良くしたい、宇都宮大学の発展に寄与したいという強い信念を感じることができます。さらに、現在のコロナ禍という難局に際して、本学の教育活動を維持し教育の質を保証するための施策を、リーダーシップを持って推進してこられたことから明らかなように、我々は、今後も池田先生が本学の直面する諸課題に対して大胆に切り込んで大学を運営してゆくことを期待し、お任せできると考えます。

池田宰先生が学長にご就任なった暁には、その魅力的なお人柄で学内の融和を図りつつ改革を押し進め、地域ならびに産業界と大学の結び付きを一層強めて、宇都宮大学のブランド力を高め、バランスを保ちながら次のステージに我々を導いてくださるものと確信しておりますので、次期学長候補者として推薦いたします。

○推薦者

別紙推薦者名簿のとおり

学長選考対象者推薦状

令和2年9月14日

国立大学法人宇都宮大学
学長選考会議議長 殿

推薦者代表
所属・職名 国際学部・教授
氏名 丁貴連 

私は、学長選考対象者として下記の者を推薦します。

記

1. 氏名 田巻 松雄

2. 現(元)職名 教授

3. 推薦理由 田巻氏は、研究・教育・社会貢献の面で常に実績を残してきた。多数の著書を出版してきた。研究代表者として科研A(2014年度～2023年度)が連続採択されている。代表者として外国人児童生徒教育支援事業(HANDS)を10年展開してきた。学部・大学院において極めて多くの学生の論文指導を行ってきた。国際学部長在任中(2013～2019年度)に国立大学の学部として初めて外国人生徒入試を創設設計して導いた。このほか、改組を実現するなどリーダーシップを十二分に発揮してきた。人格は高潔で、本学の理念を実現するための明確なビジョンを構築し、構成員とともに改革を実行できる能力を有している。

○推薦者 別紙推薦者名簿のとおり



学長選考対象者推薦状

令和 2年 9月 17日

国立大学法人宇都宮大学
学長選考会議議長 殿

推薦者代表

所属・職名
氏 名

農学部・教授
齋藤 高弘



私は、学長選考対象者として下記の者を推薦します。

記

1. 氏 名 夏秋 知英

2. 現(元)職名 国立大学法人宇都宮大学理事・副学長

3. 推薦理由

夏秋知英氏は、1980年8月に本学に奉職して以来、教育・研究・地域貢献・国際交流の推進並びにバイオサイエンスの礎を築かれるとともに農学部評議員・学部長・副学長・理事など本学の運営に携わってきました。この間、研究においては植物ウイルスに対するワクチン開発をはじめ、大型外部資金の獲得や著名な雑誌への研究業績を重ねられ、この経験を基に研究担当理事として本学の研究力の見える化と活性化に対する処方箋を提案・実施されました。また、Purdue 大学やアジア・アフリカ地域との双方向の国際交流、コロナ禍でのメディア講義への迅速な対応、宇都宮大学の向かうべき方向性としてのSDGsの推進、大学の位置づけとしての大学ランキングへの対応を強力に進めました。これらは、氏が的確に現状を分析し、未来を見通すビジョンと見識を有する表われであり、今後の本学の経営を担うにまさにふさわしい人物であり、ここに学長候補として推薦いたします。

○推薦者

別紙推薦者名簿のとおり

